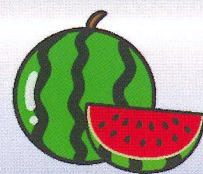


夏

つゆくさ

TSUYUKUSA

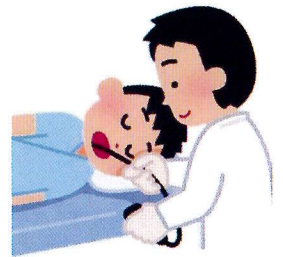


6 階の病室からの風景です。昨年秋に空調工事が完了し、
今年の夏は涼しい療養環境をご提供できます。

消化器内科のご紹介

医師 前佛 均(ぜんぶつ ひとし)

日本では毎年たくさんの方ががんにかかり、最近の統計データでは日本人の2人に1人が一生のうち一度はがんにかかることがわかっています。がんは私たち日本人にとってとても身近な病気なのです。がんにならないためには、喫煙をしない、アルコールを取り過ぎないなどの生活習慣を改めることが大切ですが、いくら生活習慣に気をつけていてもがんにかかってしまうことがあります。では、がんで命を落とさないためには何が大切なのでしょう？それは、ズバリ「がんの早期発見」です。がんの多くは、早期に見つけることができれば、この病気で命を落とす可能性が低くなるのです。日本人で特に多い胃がん、大腸がんの早期発見のためには「内視鏡などの定期的な検査」を受けることがとても重要です。当院では、「苦しみを伴わない内視鏡検査」により、がんをできるだけ早期に見つけて、胃がん・大腸がんなど消化器系のがんで命を落とすことのないよう、皆様のお役に立てればと願っております。皆さま是非とも、年に1度の胃カメラ、2年に1度くらいの大腸カメラ検査を受けるようにしましょう！



総合診療科のご紹介

『体調不良はありませんか？』

こんにちは、総合診療科です。総合診療科は、身体(からだ)を、問診や聴診、視診、触診などで今ある症状を深く診察させていただき、診断や治療を行います。特に、複数の症状を持っている方や、どの診療科を受診していいのかわからない場合の受診に適しています。

季節の変わり目は体調を崩す方も少なくありません。症状があるけれど、何科を受診していいかわかっている方は予約の必要はありませんのでお気軽にご相談ください。

地域包括ケア病棟

レスパイトケア入院のご案内

このたび、コロナ感染症病棟としていたため閉鎖していた地域包括ケア病棟を再開いたしました。地域包括ケア病棟ではレスパイトケア入院の受け入れを行っております。

☆レスパイトケア入院とは何ですか？

レスパイト（respite）は休息・息抜きという意味で、治療のためではなく、医療的な管理や処置が必要な方などの病院での短期滞在（ショートステイ）です。数日～最大 60 日までの入院が可能です。

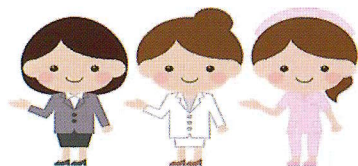


☆どのような患者さんを受け入れてくれるのですか？

自宅で生活している方、介護者の急な入院・介護疲れ・旅行等一時的なショートステイをお探しの方、医療的な問題でショートステイ施設の利用が難しい方など対象です。

☆レスパイト入院をしたい場合はどうしたらよいのでしょうか？

かかりつけの先生に小樽協会病院宛に『診療情報提供書』の記載をご相談ください。（当院かかりつけの場合は、担当医師または医療相談室へご相談ください）
かかりつけの医療機関から診療情報提供書・薬剤情報、包括病棟申込書が届き次第、確認の上、かかりつけの医療機関にご返答させていただきます。



医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・薬剤師・管理栄養士・医療ソーシャルワーカーなどの院内多職種で、患者様ご本人・ご家族・ケアマネジャーさん等と相談・連携し、自宅へ戻られるまで総合的にサポートいたします。

地域包括ケアシステムと『訪問栄養指導』、『訪問薬剤指導』

「地域包括ケアシステム」・・・

国は地域包括ケアシステムの構築を急いでいます。

地域包括ケアシステムでは地域で高齢者を支えていくことが求められ、そのためには訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問栄養指導、訪問薬剤指導などの在宅医療がどうしても不可欠になります。今回は「訪問栄養指導」と「訪問薬剤指導」の概要についてご紹介します。



『訪問栄養指導』・・・

平均寿命は医療技術の進歩や生活環境の変化によって伸び続け、日本は世界有数の長寿大国となりました。しかし、平均寿命と健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）との差は10歳以上の開きがあるといわれています。



健康寿命を延ばすために栄養管理は重要です。そして在宅高齢者における栄養管理はフレイル（加齢により心身が老い衰えた状態）や低栄養状態に陥らせないためにさらに重要とされています。

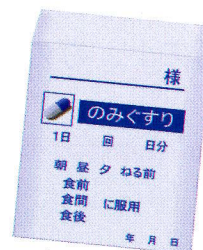


高齢者が“可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続ける”ためには、介護や支援が必要な状態や病気になる前に地域における栄養面からの予防的対応も必要になります。

『訪問薬剤指導』・・・

「訪問薬剤指導」とは、薬剤師が患者様の住居を訪れ、服薬状況を把握し、正しく服用できるよう薬の管理を行うサービスです。薬の効果を最大限に発揮させるために、服薬指導や副作用の有無、他院処方薬との飲み合わせの確認など薬学的管理を行います。

「訪問薬剤」は主治医が訪問指示書を作成し、患者様の了承を得たのち開始することができます。介護認定されている方が主な対象になり、月2回までの訪問が可能です。

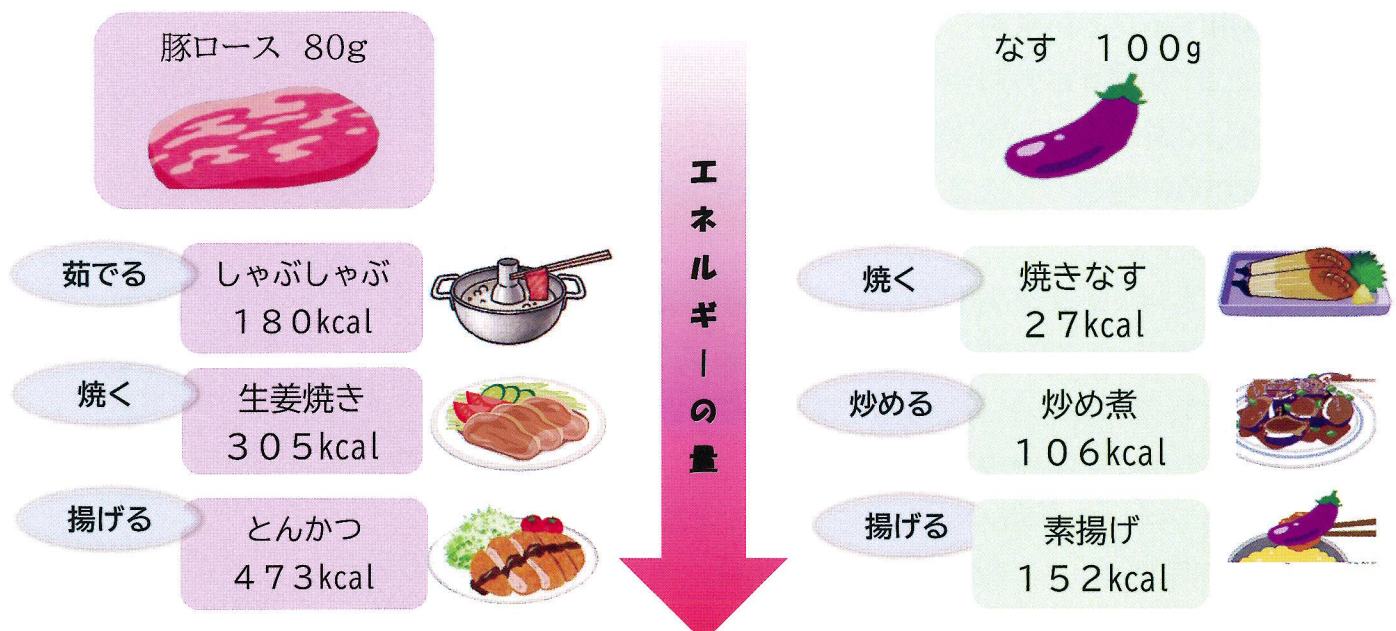


病院自体が行う訪問薬剤の特徴は、患者様を直接診ている病院の職員が行うので、情報を共有しやすい事です（一般的には在宅訪問薬剤指導は、院外薬局の薬剤師によるものが主流となっています）。指示の意図を踏まえた訪問を行え、また、病院側が必要とする情報を把握、還元できるため、より効果的な医療の提供に繋げやすいメリットがあります。

「栄養ニュース」より

調理法を意識してヘルシーな食事づくりを！

同じ食材・同じ量でも調理の仕方によってエネルギー・脂質の量が大きく変化します。食事づくりやお惣菜選びのときに調理法を意識してみましょう！



少なめ

調理法によるエネルギーの量

多め



脂質の過剰摂取は肥満、動脈硬化、心筋梗塞などの
リスクを高める可能性 があります。

調理法以外にも、油の多い料理が重ならないようにする

(例：唐揚げ＋野菜炒め→お浸しや煮物に) など

少しの工夫から美味しく健康的な食事を楽しみましょう！

職場紹介

「臨床工学科」

臨床工学科主任 大澤尚矢

当科には現在 9 名の臨床工学技士が在籍しており、各診療科で使用する医療機器を管理しています。

臨床工学技士には医療機器の操作・保守点検を行い、救急救命時における治療のサポートや病院内で医療機器を安全に運用することが求められます。私達は医療職で唯一、医学と工学の両方の知識を有し、医療機器のスペシャリストとして重要な役割を担い、急性期病院として病棟や診療科からの期待に応えるべく 24 時間体制で業務を行っています。

臨床工学技士は CE とも呼ばれていて、医師の指示のもと人工透析装置、人工心肺装置、人工呼吸装置などの生命維持管理装置の操作も行います。現代の医療現場には、多種多様の高度医療機器が溢れていますが、この高度医療機器を用いた診療や治療を安全に行えるよう医療機器の専門家として、その保守管理や操作にあたるとともに、医療チームの一員として患者様の治療に携わっています。また日々の業務と並行して所属学会での発表や勉強会への参加、さらなるスキルアップのための認定や資格の取得にも積極的に挑戦しています。

近年は、タスク・シフト/タスク・シェアが注目され日本全体で『働き方改革』が推進されていますが、臨床工学科では現在 6 名のスタッフが指定講習を修了していて、医師の労働時間の削減や健康の確保、適切な地域医療の維持・確保、医療安全のさらなる向上に貢献できるよう日々取り組んでいます。

当院での臨床工学技士の業務は生命維持管理装置の操作以外にも心臓カテーテル検査をはじめとした循環器治療での機器管理、手術室や内視鏡室での機材管理、透析装置の操作・管理など多種に及びますが、詳細については別の機会に紹介させていただきます。



職場紹介

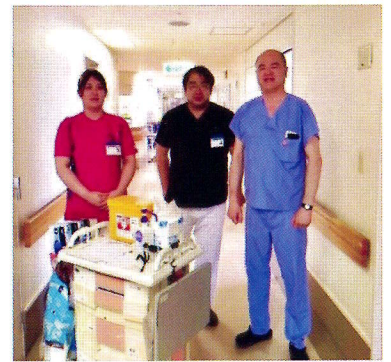
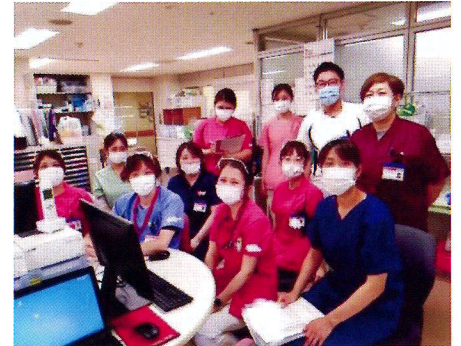
「4 病棟」

看護師長 北川修司

今回は4階病棟の外科部門について紹介させていただきます。外科には消化器外科や呼吸器外科、整形外科など様々な分野が存在していますが、4階病棟の外科部門は、肺がんや気胸などの呼吸器疾患、胃がんや大腸がん、胆石、痔核などの消化器疾患、また乳がんなどの乳腺疾患を専門に質の高い周術期医療を提供しております。術前術後の抗がん剤治療や放射線療法のほか、がんの再発や進行がんなどの根治が難しいとされる疾患に対する緩和医療も行っており、周術期におけるサポートから終末期医療まで患者さまひとりひとりに寄り添いながら、それぞれに合った医療を提供しています。

手術のような侵襲を伴う治療や抗がん剤治療はもとより、終末期医療のように患者さまの尊厳を守り、自分らしい最期を迎えられるよう支援するためには、経験豊富で確かな知識と技術をもった医師や看護師の存在が必要不可欠です。当院では、各種医学会からの認定医などそれぞれの分野に特化した資格を有す医師、がん看護専門看護師やがん化学療法認定看護師、感染管理認定看護師など様々な分野のプロフェッショナルも在籍しており、4階病棟の外科部門と連携を図りながら良質の医療を提供できるよう日々取り組んでおります。また、4階病棟の強みは小児科、産婦人科との混合病棟であることです。他の施設とは違い、病棟内で小児科や産婦人科領域の専門スタッフと連携を図ることができるため、小さなお子さまや女性特有のお悩みを抱えた方などにも安心して外科的治療をうけていただくことができます。

私自身は、入院中の患者さまが安心安全で快適な入院生活を送るために最も重要なことは患者さまと医療従事者との信頼関係と考えております。たとえ高い知識や技術を持っていたとしても、道德感や倫理感などの人間性が備わった者でなければその真価は発揮できず、患者さまとの信頼関係の構築が困難であると考えます。そのため、4階病棟のスタッフには、人と人とのかわり方や言葉の伝え方、社会人としての姿勢、謙虚さや自己成長といった部分の教育に、とくに力を入れているところです。まだまだ未熟な部分は多くありますが、患者さまにとって私たちとの出会いや、提供させていただく医療が最大限の利益となるよう努力していく次第です。外科的な治療が必要となった際には、私たちも一緒に病気に向き合わせていただければ幸いに思います。



立ち会い分娩について

当院では現在、立ち会い分娩を再開いたしております。

安全・安心な分娩ができるよう、引き続き感染対策を行っており、立ち会い分娩を希望される患者様、ご家族様にもご協力をいただいております。ご希望される方は産婦人科外来までお問い合わせください。

患者様、患者ご家族様 「面会について」

当院では現在、感染対策の観点から下記のような面会のためのルールを運用しております。面会は原則予約制となりますのでご理解、ご協力いただきますようお願いいたします。

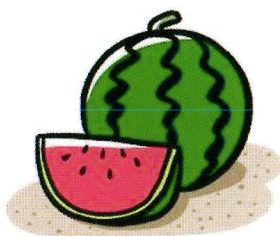
- 1) 病院より面会の許可がある方（事前に確認と予約の連絡が必要です）
- 2) 成人の同居家族やそれに準じる関係の方（中学生以下の方はご遠慮ください）
- 3) 1週間以内に発熱や咳などの風邪症状のない方、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ・感染性胃腸炎などの疑いがない方（面会者とその同居者を含む）
- 4) 患者さん1名に対して1日1回2名まで、面会は30分以内
- 5) 面会の際に個室の対応が可能な方

なおその他詳細は院内ポスター、当院ホームページをご覧ください

<https://www.otarukyokai.or.jp/hotnews/detail/00002268.html>



編集後記：新型コロナ感染症が5類となり、小樽にも多くの観光客が訪れ、お祭りも通常開催にもどり、やっと夏らしい風景が戻ってきました。季節を感じる事ができる風物詩って心が落ち着きますね。（大塚）



小樽協会病院広報誌「つゆくさ」NO.68

発行：小樽協会病院編集委員会

発行日：令和5年7月

発行人：宮本 憲行

編集人：大塚 裕仁